

文化と防災の合体

～演劇・落語・絵本・音楽～

文化で伝える防災の心～

東京都東久留米市「防災一人語り」推進グループ、「防災一人語り」絵本・童話シリーズ制作グループ、楽曲「うちのUF0 住警器」作成グループ

代表 加藤 雅



1 「防災一人語り」推進活動

「幸市！幸市！早く、早く逃げなさい！私は声の限りに叫びました。」…火災で幼児を亡くした母親の悔恨と、助けられなかった消防隊長の無念の思いを伝える防災一人語り第1部「おにぎりいっぱいのお愛」を平成17年11月、初演しました。

「防災一人語り」は、一人の演技者が複数の登場人物を演じる朗読劇で、日米の女優、落語家、歌手など多彩な演技者がいます。

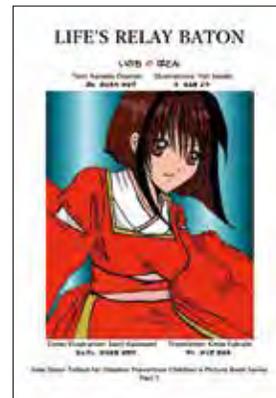
「おにぎりいっぱいのお愛」をはじめ、救急・救助や消防団活動、自然災害などの主に実話を題材にした英語版や落語を含む合計20の作品（脚本）があり、平成17年の初演以降、各地の小中高校や大学での学校公演、カナダ大使館での公演などを含め、13都県で66回、全て無料で上演しています。



防災一人語り第6部「迷子椎一三宅島大噴火一」を熱演する女優・三咲順子さん



防災落語其の四「セロ弾きのゴーシュ」を語る川柳つくし師匠。宮尾悠・中村沙穂さんがチェロを演奏



バイリンガル絵本の表紙。表紙の絵は、16歳で亡くなった川崎沙織さんが中学生で描いたもの

作にした絵本や童話の制作に着手しました。令和2年9月10日、防災一人語り第10部「命のバトン」を原作にした、日本文と英文を併記したバイリンガル絵本「LIFE'S RELAY BATON いのちのぼとん」を自主制作して初版を発行しました（非売品）。

16歳の誕生日を迎えた日、高校の体育祭でリレーのバトンを渡した直後に倒れて4日後の9月10日に亡くなった少女の母親がNPO法人「命のバトン」を設立し、今も活動

2 バイリンガル絵本 LIFE'S RELAY BATON いのちのぼとん

平成30年、「防災一人語り」の脚本を原

しています。その実話に基づくバイリンガル絵本です。初版から4回の増刷を重ね、43都道府県の約1,450校（11都県の都県立学校、61市町村立の小中高校。大学、私立学校）に各校1部、寄贈しました。

また、図書館や公共施設、各種法人などにも寄贈し、本年9月10日に第6刷の発行を予定しています。

こちらは令和4年2月9日、関西地方の某市の教育長様から頂いた第5刷の寄贈に際すお礼状の抜粋です。

「『じぶんのいのちもほかのひとのいのちもおなじようにたいせつにしてほしい。』絵本の中でのおかあさんのメッセージは、まさに今、子供達に伝えたい一番大切なメッセージです。」

3 ソングとイラストで住警器の設置促進

平成21年3月、住宅用火災警報器の設置促進用広報ツールとして、楽曲「うちのUF0住警器」とそのイメージイラストを東京都内で公開しました。「♪煙や熱をキャッチして音で知らせてくれるんだ」などと、軽快なメロディーに合わせて機能を分かりやすく紹介しています。公開後、報道記事やインターネットで見聞きした全国の消防本部等から活用の依頼が相つぎ、41都道府県、95の消防本部等に音源とイラストのデータを無償で提供しました。

昨年11月の秋の火災予防運動中に和歌山市消防局、本年3月の春の火災予防運動中に射水市消防本部新湊消防署から、ソングによる広報活動の情報が寄せられるなど、現在も各地で活用されています。

4 文化と防災の合体

総務省消防庁が主催する「防災まちづくり大賞」を、ボランティア団体である各グ

ループの活動実績が高く評価されて2回受賞しています。平成25年1月23日、楽曲「うちのUF0住警器」作成グループが、第17回防災まちづくり大賞で総務大臣賞を受賞。本年2月25日、「防災一人語り」推進グループが、第26回同賞で消防庁長官賞を受賞しました。「防災教育、防災啓発を芸術・文化にして伝達している点を高く評価。」「演劇や演奏、落語など芸術的手法を用いることにより一人一人の心に響く防災啓発活動を継続的に推進しており、文化芸術と防災のコラボレーションという創造性とその効果が高く評価できる。」、以上は、第26回防災まちづくり大賞選定委員の皆様のコメントです。

私たち各グループは、防火防災の啓発などを体現する手法（手段）として、様々なソフト（文化）を用いています。これからも、全国各地の皆様のご理解・ご協力とご支援を賜りながら、柔軟な発想で活動を推進してまいります。

※活動の詳細は、ホームページをご覧ください。
Website：文化と防災の合体
<https://www.bousaihitorikatari.jp/>



和歌山地域密着型アイドル FunxFam の皆さんが住警器ソングを歌唱